

令和5年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和5年11月21日（火） 午前10時00分開会

2 開催場所 市原歴史博物館

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委 員	木曾野 真紀
副委員長	友田 賢司	委 員	近藤 敏
委 員	平川 真	委 員	地引 尚幸
委 員	今井 恵子	委 員	唐木 義昭
委 員	加藤 正人		

(欠席委員)

委 員	山本 博		
-----	------	--	--

4 出席職員

顧 問	井口 崇	副主査	水流 拓馬
館 長	西原 崇浩	生涯学習課 文化振興班長	田中 大介
主 幹	桐村久美子	生涯学習課 学芸員	助川 諒

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 議題

(1) 市原歴史博物館の活動について

(2) その他

7 議事 (1) 市原歴史博物館の活動について

(市原歴史博物館の展示施設・収蔵施設・歴史体験館を視察)

対応 鷹野館長・鶴岡主査(学芸員)

視察後、歴史体験館和室にて鶴岡主査より、展示施設及び収蔵施設の現状、歴史体験館での活動の実際、フィールドミュージアムの運営等について資料に基づき説明。

鶴岡主査 市原歴史博物館は、市域全体が博物館というフィールドミュージアム構想のもと、市原の歴史をつなぐ拠点施設 I' Museum Center として、令和4年11月に開館しました。ただいま特別展開催中なので常設展示は撤去していますが、展示室の中央には、「王賜銘鉄剣」を象徴展示とし、常設展示は通史による構成を基本に、貝塚や古墳群、国府・国分寺等、本市の特徴的なテーマにより展開しています。展示室は可動間仕切りを採用し、可変型の空間構成とすることで、展示資料の変更や企画展示を行いやすくしています。また、歴史体験館は、ゲートボール場を改築したもので、全天候型での体験が可能となっています。フィールドミュージアムはまだ整備途中ですが、現在8地区分のフィールドマップが完成しており、博物館で配布しております。

また、ただいま開催中の特別展ではアリオ市原と連携し、「お薬師様ぬりえ」に色をぬって市原歴史博物館に持ってくると、受付でアリオ市原のグルメクーポン引き換え券と交換できます。他団体との連携は積極的に行っており、加曾利貝塚博物館とは連携協定を締結し、千葉大学とは包括連携協定により文化財の3Dデジタルデータ作成を協働で行っています。また、常設展示のデザイン・設計等を担当した丹青社とは3年間の業務委託契約を結んでおり、特別展の設計・政策と広報プロモーション業務に関わっています。

歴史体験館では毎週土日に体験ができ、こちらの運営にはいはら市民大学「歴史文化リエゾン(市民学芸員)コース」の修了者が参画しており、「ミュージアムサポーター」として、現在60人が登録しています。

博物館の職員ですが、当館は重要文化財の公開承認施設を目指しているので、館長は公開承認施設の館長経験者であることを条件に公募し、鷹野が就任しました。学芸員は考古・民俗・日本史(近世)が専門の3人です。また、

学校の先生が1人配属されていて、博学連携を担当しています。他には事務職員と会計年度任用職員が10人います。

事務局 何か質問等がありましたらお願いします。

加藤委員 開館1年となる11月20日で来館者3万人というのは、予定と比べてどうか。遅いのではないか。

鷹野館長 想定していたペースよりは、遅いとは思いますが。

友田委員 コロナの影響があったのではないのでしょうか。

鷹野館長 コロナの影響はあまりなかったと思います。

伊藤委員長 3万人には小学生も入っているのですか。

鶴岡主査 入っています。無料の人も含めて3万人です。

唐木委員 散策マップは市民にどのように伝えていますか。どうやったら手に入りますか。

鶴岡主査 各公民館や博物館で手に入ります。また、ホームページからダウンロードできるようになっています。

唐木委員 説明文がやわらかい表現ですが、年齢の低い人でもわかるようにしたのでしょいか。

鶴岡主査 どこに照準を置くかでは、中学1年生くらいでもがんばればわかる内容にしています。あまり大人向けの専門的な内容にはしていません。もう少し詳しく知りたい方は、QRコードからインターネットで見られるようにしてい

ます。館内はフリーWi-Fiです。

伊藤委員長 結界の木材に直接書いてある説明がわかりやすかった。

鶴岡主査 今回の特別展はなるべく資料を見ていただきたかったので、露出展示でパネルを貼らないようにしました。

加藤委員 あまり説明が長くてもいけないので、いいと思います。

鶴岡主査 今回お寺から借りている仏像は撮影できないので、図録で見ていただきたいと思います。

伊藤委員長 写真ポイントは利用している人は多いですか。

鶴岡主査 撮る人は多いです。

地引委員 仏像曼荼羅のようで、いいと思います。

事務局 市原歴史博物館の展示施設及び収蔵施設について、何か気が付いた点や参考になったところがありましたらお願いします。

伊藤委員長 収蔵施設が広くて良かったです。常設展はわかりやすく、特別展は写真ポイントがあるのが良かった。入口にジオラマがあり、市原市がよくわかりました。

平川委員 想像していたよりも広くはなかったですが、地元に着した展示内容で良かったと思います。普段見ることがないバックヤードも見学させていただきとても良かったです。

また、地域毎のマップがとても充実しているのが良かった。自分もかつて市原市で勤務したので、懐かしく思うと共に、地図にある散策コースを歩い

てみたいと思いました。土日毎にワークショップを開催しているのがすごいと思いました。

友田委員 入口のジオラマはまだ製作途中とのこと、20本の柱それぞれにマップを用意し（現在8枚）各地を紹介する形で、これから先への期待感とリピーターの増加を見込んでいるのがわかりました。

展示施設は、壁が動き、天井のスポットライトも自由に配置できるため、展示のバリエーションが多彩にできる点は良いと思いました。企画展用の部屋がなくその都度館内を入れ替えるのは大変な作業です。展示品の背景に違った色の布を使っているのは仏像に趣を醸し出してよかったです。露出展示については、間近にいろいろな角度から観察出来てよいと思ったが手の届きそうな距離がちょっと心配、また空調が大変だろうと思いました。

貝塚の断面が展示してあったのは来館した子ども達も古代の人々の生活に思いを馳せるきっかけになりそうで良かった。展示場出口に記念写真用の用意がされているのも面白かったです。

今井委員 開館1周年という新しさ、既存の館の知恵を集め、生かした素晴らしい運営と思いました。限られたスペースを有効利用するための工夫を感じました。展示コーナーをより広くとるためバックヤードがミニマムになるのは心配です。防災が気になるところです。

加藤委員 展示室に可動間仕切りの採用により、コンパクト展示にも対応がスムーズでした。バックヤードがまだ新しいせいかきちんと整理されており、素晴らしいと感じた。フィールドガイダンス展示が、入館と同時に見られることが出来、I' Museum Fieldでの地域位置が分かりやすいと感じた。

木曽野委員 以前滋賀県の琵琶湖博物館に行った時、入ってすぐの大きな航空写真の上を歩いて回り、知っている場所をたどるのがとても楽しかったです。情報コーナーの市原市のフィールドガイダンス展示のようなものが壁だったら低い位置にあると話がしやすいと思いました。3Dプリンターによる貴重な資料

の複製品に触れる展示もよいと思いました。

地引委員 まず展示施設は、可動式間仕切りによる効果的な展示構成がよかったです。空間を最大限に使用した仏像の露出展示、重要文化財の龍角寺白鳳仏、撮影コーナーなど「見せる」「区切る」を効果的に演出できていて、じっくり仏像を鑑賞できる配慮がありました。常設展フロアでの特別展示は、常設展の撤去・特別展の展示・常設展復元などの作業による臨時休館が発生し、特別展期間中は常設展の目玉資料が見られないのが残念。民俗展示「五大力船」の映像は、小学生を念頭に置いたわかりやすくコンパクトな内容でした。市原市は民俗資料も豊富に収蔵しており、今後の民俗展示の充実を望みます。

収蔵施設については、新館内の収蔵施設は、資料別（金属器・古文書など）に温湿度を管理しています。埋蔵文化財センターとの共有スペースは膨大な発掘資料が収蔵されており、いずれも同じ問題を抱えています。

近藤委員 市原歴史博物館は展示室が一部屋なので、今回企画展(10月1日～12月24日)のために、常設展示を全て取り払い、一部の展示品を隣接の多目的体験室に移して展示していました。常設展示と企画展示室と同じくするのは、博物館の床面積を抑えるための、苦肉の策だそうです。常設企画展示室は天井にレールが敷かれており、そのため、展示区画壁がある程度自由にレイアウトが可能です。以前常設展示を見学していた私は、見学の方角も逆になっており、展示室を初めて見た感覚でした。これらは展示室をリニューアルする際は、このような施工方法があることを識っておきたいものです。現在の出入口のアプローチについては、高齢者等に配慮して階段の色彩を視覚考慮して段差が目立つように、今後考えるそうです。バリアフリーについては、専門家の助言が必要であることを感じました。

収蔵施設は、バックヤードまで見学させて頂きました。登録博物館(公開承認施設)の条件を目指すために展示室は鞘堂になっており、搬入口脇には完全空調のある特別収蔵庫が設置してありました。博物館法が改正され今年4月から施行されており、かなり厳しい条件であることが判りました。

唐木委員 建物が新しい為、天井のレールを動かすことにより、展示室の大きさが変える事が出来て展示物の変化に対応できます。

仏像の展示方法がよかった。ケースに入っていない為、間近に見られ、仏像の背景の薄いシート、説明文が仏像の前下にある為、仏像がクローズアップする。展示物がケースに入っていないためリスクはあるが、見物者から見ると身近に感じられて良いと思います。

事務局 歴史体験館での活動や教育普及事業について、何か気がついた点や参考になったところがありましたら、お聞かせください。

伊藤委員長 歴史体験館は広くて良かったです。学校からの体験者が多く、教育普及事業に力を入れているのがわかりました。

平川委員 元ゲートボール場を活用しての体験館は、十分な広さがあり学年で見学しても十分な広さであると思います。特に屋内なので天候に左右されず、昼食もとれるのはいいですね。内容的には、袖ヶ浦市の進藤家や博物館2階の昔の道具の展示の方がより深く学習できると正直思いました。

友田委員 市原市の博物館では市民を巻き込んで、一緒に博物館を創っていこう、盛り上げて行こうと努力している姿勢が感じられました。ボランティアと呼ばずサポーターとして活動参加してもらっていると強調していたことも良い印象でした。

今井委員 体験活動のプログラムが多彩です。8月のイベントカレンダーを見ましたが、小学生をもつ親にとってありがたいことでしょう。

加藤委員 全天候型屋内体験学習施設には、驚きました。羨ましい。昨今旅行・伝統文化・料理等多くにおいて、「見る」から「体験する」に変化が見受けられます。今後、この施設で更なる体験学習が期待できると思います。

毎月の土日・祝日に体験メニュー表をつくり活動していますが、担当者と対応人員、毎回の参加者はどの程度か知りたい。

木曾野委員 本物を発掘出来るというのはインパクトが強いな、と思いました。旧進藤家住宅で本物のかまどでご飯を炊けるイベントなどよいかな、と思いました。

地引委員 全天候型屋内施設での体験学習は、既存のゲートボール場を再整備して、体験施設、駐車場に活用したもので、発掘体験や屋外民具・民俗技術体験などのプログラムが実施可能。体験学習を支えているサポーター（登録数60人）の存在。人気プログラムをどう運営するのが課題。フィールドミュージアムの展開について、博物館職員も今後の課題としてあげていました。博物館という拠点、そこで培われた人材の活躍、地域連携、データのデジタル化など。商業施設との連携、アリオ市原にブースを設けて特別展の広報活動を展開している。生活の身近なところに博物館があるとよいと思います。

近藤委員 歴史博物館の建物面積等は、博物館：1,234.16㎡、体験館：1,794.71㎡であり、500㎡以上も体験館が広い。体験館がリニューアル元屋内ゲートボール場2面分であることが、要因である。博物館隣接施設の有効活用として特色のある施設となった。その広さは、日本テレビドラマ「それってパクリじゃないですか？」5月3日放送回(第4話)では、体験館を舞台にロケが行われました。著作権SNS等、縄文土器の意匠登録が騒がれている中、タイムリーな内容のドラマ設定でした。

一般は土日設定の体験館行事ですが、学校等の行事には平日対応して、夏期休暇中は子供向けの講座がある。体験学習館として常時機能する場をボランティア市民サポーター（生涯学習の市民大学受講者）が担っていることは、博物館と市の事業と協力関係があり心強いです。NHKTV 歴史番組では、博物学が学術に分化して、明治以降は術(すべ)に置き換わった。博物学は本来学芸として、芸＝楽しみとしてあるべきであり、博物館学芸員はその楽しみを伝えられる業務の中心に置くべきとしていると思いました。市民も親も子どもも「共に学ぶ喜び」を選ぶことは、人生の糧になることの重要事項です。

唐木委員 地域の人達の協力、学校関係の協力がうまく、かみ合っていると感じた。地域ではそれぞれの所で活動し、コースの案内も各地域で行っている事は理想であると思う。学校関係も話によると、60名程の先生方が協力してくれているとの事。又、博物館での体験学習もしっかり予定表が組まれており指導する講師の確保も出来ている事も、なかなか難しい課題であるがクリア出来ている事は素晴らしい。

事務局 市原歴史博物館の活動について、袖ケ浦市郷土博物館でも取り入れた方がいいと思うものがありましたら、お願いいたします。

伊藤委員長 展示の説明をわかりやすいようにしてください。袖ケ浦市のジオラマを作成すると良いと思います。触れる展示も参考になると思います。

平川委員 地域毎のマップがあるとより多くの方が興味を持つのでは。

今井委員 他館と比べるためには、自館をもっと良く知らねばならないと感じました。

加藤委員 展示方法について、美術的な手法（装飾・照明も含め、部屋に入ったら一目で驚く輝き）は、活字で多くを説明するより、インパクトがあると思う。説明書きはポイントを絞り、詳細な説明は、多少お金が掛かるが別途印刷物で更に興味のある見学者に読んでもらえればよいのでは。

木曾野委員 市民学芸員とか袖博でもされているので、特にありません。

近藤委員 市原市と千葉市では、博物館連携協定があります。加曽利貝塚博物館連携展の企画展(10月3日～11月26日)においては、市原市出土の縄文時代資料の展示をしていました。市原歴史博物館特展時期には、常設展示資料を連携館へ資料を貸し出していました。また、木更津市博物館金のすずでも特別展(11月1日～12月10日)が開催され、市原市所蔵奈良時代関連の資料が貸し出して展示さ

れています。展示の際は説明書きのキャプションも必要なので、写真等も電磁データであればそのまま引き継ぐことができます。隣接市に於いては、共有する歴史文化資料が多数あるので、これらの博物館同士の連携は、展示作業省力化にも寄与するものであると思います。博物館学芸員の隣接市を含めた広い交流が、新しい博物館を運営していくことに大切だと思います。

現在、多く地域博物館が埋蔵文化財担当出身であることは事実で、郷土の歴史・文化・民俗・考古学については、広く大勢の方々に博物館が認知して頂けるような環境、方向への試行錯誤の時間が、そこにあると思います。博物館来館者には、1~2割のコアなマニアの方々もお出でになりますが、残りの8割~9割の方々に、「どのように見えるか」よりも「どのように見せるか」の努力が必要になってきていると感じています。

唐木委員 地域、学校との連携は参考に値すると思います。是非、力を入れて欲しい。市内の史跡を屋根のない博物館と見立て、整備して見学コースを設定してイラストマップを作製して、市民の参加を募るという工程は、袖ヶ浦でも山野貝塚が立ち上がって来るので、相乗効果を上げる為にも、これからの大きな課題であり作業でもあると思います。

事務局 その他、気が付いたこと、思ったこと、感想などがありましたら、お願いいたします。

伊藤委員長 仏像などは説明が難しかったです。バックヤードが広く、管理されていると思いました。

平川委員 学校では3・6年生がお世話になっていますが、とても充実した学習の場を提供してくださりとてもありがたいです。

また、見学の際はどの学校もワークシート等を使用しているかと思いますが、それを博物館の方で話す内容に準じた物を作ってもらえると子供にとってはより深く学習できることとなると同時に学校職員にとってはワークシート作成の負担が減るので良いかなと思いました。

友田委員 他の施設を視察で訪問できると通常では見れないところや、立ち入った説明を受けることが出来て、勉強になりました。できれば県内の他の施設も見学したい。また自館の普段の活動、例えば展示品の入れ替えの作業しているところとか邪魔にならない程度で良いので見てみたいです。

今井委員 コロナ禍により、社会全体で病と向き合ったことは大きなことでした。現代と違い病にほとんど無力だった先人たちの様、守るため・打ち払うために知恵を集めた者たちの尽力を思いました。タイムリーな展示を楽しみました。
資料の借用、サポーターの活動など、市民との良好な関係を思いました。

加藤委員 I' Museum Field マップは、地域毎に立派に作られているが、概略図のため個人で行動するには分かり難いのではないかと思います。

フィールドマップ巡りは、「ふるさと市原をつなぐ連絡会」が主催して、定期的に活動しているみたいですが、「郷土を学ぶ会」の参考になります。

木曾野委員 袖ヶ浦市郷土博物館でも、広報そでがうらでの特集と連載ができればと思います。

近藤委員 その土地地域の記憶が郷土歴史であり、個人ではその人の記憶がその個人の歴史としての自己同一性(self-identity)です。本来郷土とそこに在住するコミュニティや人に同一性がありました。これらを失うことは、自分自身を失うことであり、現在社会現象の多くの問題は、これらに起因することがあると私は考えています。

袖ヶ浦市郷土博物館は袖ヶ浦公園の一角にあり、近隣市町村でも随一の好環境であり開館以来、良いロケーションがあると思います。これらを博物館主体で活用する方針を市役所内部にも広くコンセンサス得て行く事が必要と考えています。それらは史跡山野貝塚の整備とサイトミュージアム構想として取り入れられるものとして、考えて頂きたいと思います。

唐木委員 今回の企画展は、市原市にある貴重な文化財の公開です。私は過去にいすみ市郷土資料館による法興寺の仏像展の感想を会議の席で、話をした事がありますが、この2つの文化財の展示は見事であるし、見学した市民の皆さんも、自分の市にこれだけの文化財がある事に感慨を持った事だろうと思います。袖ケ浦にもたくさんの文化財があると思うので、是非、市民の皆さんに、この様な企画展を開き、自分の市にある文化財を認識し、誇りに思って欲しいです。

事務局 慎重審議ありがとうございました。令和5年度第2回袖ケ浦市郷土博物館協議会、これにて閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会